

市場の失敗 1 . 外部効果

技術的外部効果があると価格の歪みが生じ、完全競争市場の均衡で死加重が発生する。

I. 市場の失敗とは何か

A. 市場経済のさまざまな問題

1. 所得分配 → 福祉政策
 - a. 分配の不公平
 - b. 貧困
2. 景気変動 → 景気対策
 - a. 経済成長への影響
 - b. 失業

B. 「厚生経済学の基本定理」に関する問題 —— 「市場の失敗」: 市場の効率性が失われる。

1. 第一基本定理に関する問題: 技術的外部効果
 - a. 定理の主張
完全競争市場の均衡で定まる資源配分は、効率的な資源配分である。
 - b. 定理の前提: 技術的外部効果がない。
2. 第二基本定理に関する問題: 費用逡減産業
 - a. 定理の主張
社会が望む効率的な資源配分は、完全競争市場において実現できる。
 - b. 定理の前提: 生産費は逡減し続けない。

II. 外部効果 (external effects) の二つの意味

A. 金銭的外部効果

1. 金銭的外部効果の意味

ある財またはサービスの価格が、他の市場で起こったことの影響を受けて変化すること (需要供給の変化、または需要曲線、供給曲線のシフト。)

例

バイオ燃料の生産と食料価格
鉄道の開発と沿線の不動産価格

2. 根本的な原因: 異なる市場のあいだの相互依存関係

B. 技術的外部効果

1. 技術的外部効果の意味

ある企業または家計の行為が他の企業または家計に、代償なしに便益あるいは損失をおよぼすこと。その便益、損失そのものを指して「外部効果」ということもある。

例

外部不経済効果 工場廃棄物による環境汚染、近隣騒音
外部経済効果 ダムの建設と下流の水害防止

2. 根本的な原因

- a. 専有されていない
- b. 市場がない

III. 私的限界費用と社会的限界費用のあいだの開きと死荷重

A. 完全競争均衡

1. 企業の利潤最大化

$$\text{価格} = \text{私的限界費用}$$

2. 価格の歪み

a. 外部不経済： 私的限界費用 < 社会的限界費用

$$\text{価格} < \text{社会的限界費用}$$

b. 外部経済： 私的限界費用 > 社会的限界費用

$$\text{価格} > \text{社会的限界費用}$$

IV. さまざまな解決策

A. 民間

1. 企業の統合

2. 交渉： 「コースの定理」

B. 政府

1. 規制による方法

2. 価格を通じた方法

a. ピグー税

b. 排出権市場

参考文献

教科書・第 12 章，177-181（第 9 章，131-133 ページも参照のこと。）

付録： コースの定理

Ronald H. Coase (1959), (1960) による (1991 年ノーベル経済学賞)

財産権の帰属が明確に定まっていれば，その配分がどのようなであっても，当事者間の補償金授受を通じて効率的資源配分が達成される。

A. この結論が成り立つための前提条件

1. 外部効果の大きさが容易に確定できる。
2. 外部効果の大きさが当事者の一方のみの活動水準によって定まる。

B. 応用上の問題点： 分配の公正の問題は未解決のまま残される。

Coase, Ronald H. (1959) "The Federal Communications Commission." *Journal of Law and Economics* 2: 1-40.

Coase, Ronald H. (1959) "The Problem of Social Cost." *Journal of Law and Economics* 3: 1-44.

Stigler, George J. (1966) *The Theory of Price*. 3rd edition. New York, New York: Macmillan.
(内田忠雄，宮下藤太郎訳『価格理論』東京：有斐閣，1974-76.) Chapter 6.